

愛知県自然観察指導員連絡協議会

協議会ニュース

181号

2024. 7



Contents

1 表紙

2 2024 年度 通常総会報告

編集担当 内海勇夫

3 講演会報告「ムシが語る昔ばなしームシとヒトの災害史の研究」

広報担当 山田博一

4 あいちの自然観察会報告(5/5)

尾張支部 霜 桂子

5 あいちの自然観察会報告(5/6)

名古屋支部 滝田久憲

6 支部総会報告 西三河支部

尾張支部

7 支部総会報告 名古屋支部

春日井市のシデコブシ

8 支部総会報告 東三河支部

保険関係

9 ピースモードで見た『山火事と自然』

東三河支部 中西 正

10 ご案内・編集後記

今号の表紙

コムスジ（編集担当）内海勇夫 小牧市 兒の森 にて

愛知県自然観察指導員連絡協議会 総会

議事録 日時 2024 年 3 月 20 日 場所 日本特殊陶芸市民会館

本年 3 月 12 日に評議会事務局長の石原様がお亡くなりになりました。 黙祷



第 1 号議案

あいちの自然観察会 4 回実施
自然観察指導員講習会 29 名が登録
残念ながら総会は欠席
研修会 萩太郎山にて
新入会者 11 名が参加
生物分類・生体研修会 林 将之氏
「葉っぱはなぜこんな形なのか」55 名参加
協議会ニュース 180 号 参照
調査保全活動 協議会で調査なし
愛知県海岸保全基本計画検討委員会
滝崎さんが参加
広報活動 協議会ニュース 発行
HP 担当 HP の更新及び運用
保険 保険担当者 一般総計 2657 名
理事会 5 回実施
その他 愛知県野生生物保護実践発表会
会長参加

第 2 号議案

収入 支出 報告

第 3 号議案

令和 6 年度役員 役員は変更なし

(事務局長は浅井さんが担当する。)

来年度は、役員改正になるので、立候補をお願いします。

第 4 号議案

あいちの自然観察会 6 地区で実施
研修会 コケの研修会 5 月 25 日(土)
講師 野田二三子氏 協議会ニュース 180 号
総会・研修会 3 月 20 日
日本特殊陶芸市民会館
森 勇一氏

「ムシが語る昔ばなしー虫と人の災害史の研究」
協議会交流の日 10 月 14 日

担当 浅井さん

生物分類・生態研修会 11 月 24 日
瀧崎さん 愛知県の外来植物
調査・保全活動 愛知県海岸保全基本計画
検討委員会に滝崎さんが参加
広報活動 機関紙 3 回発行
HP 担当 HP の更新及び運用
保険 レクリエーション損害保険参照
来年度の理事会 4 回実施予定

第 5 号議案

収入 支出予定 報告

支出については、今年度から機関紙作成の送料が高くなる。今年度はこのままやっていくが、来年度には考えていけない。(尾張支部はメール送信になっています。)

印刷所についても検討が必要である。

☆ 前回の協議会 180 号には、表紙に石原さん撮影の「スナガニ」の写真、7P には東谷山の両生類の湿地シリーズが掲載されています。

総会・記念講演 『ムシが語る昔ばなし—ムシとヒトの災害史の研究』

講師：森勇一博士（環境史学、愛知県環境審議会地質部門長）

2024 年 3 月 20 日

遺跡は、過去のヒトの営みを記録した場所である。遺跡を発掘するとヒトが制作した土器や石器、住居などが掘り出され、同時にヒトと生活を共にした多くのムシ達の存在を確かめられる。私の自宅に、毎週、全国から資料が入ったコンテナや宅急便が届けられ、二階は顕微鏡ルームになっている。昆虫は全生物の 65% を占め様々な環境に適応して生活しており、遺跡から見つかる昆虫片は甲虫やカメムシ目の仲間、ハエのさなぎが多い。遺跡の昆虫片を水洗浮遊選別法や泡沫浮遊選別法で選別するが、昆虫片がどこの部位か決定するのは難しい。

1. 鎌倉時代の大津波で窒息死したムシ… イエバエ

鎌倉は、三方を山で囲まれた要塞都市である。その若宮大路遺跡の発掘調査が行われると、ゴミ捨て場のような所に大量のイエバエのさなぎが見つかった。そのイエバエのさなぎは地震による津波で水没して窒息死していた。



2. 徳川家康と戦った本證寺にいたムシ… …戦国時代のヒメコガネ

徳川家康と戦った三河一向一揆の拠点だった本證寺の発掘調査をすると粘土層の中に緑色に輝くムシの翅が大量にあり、その昆虫片はすべてヒメコガネだと同定された。それから本證寺の境内に大量の畑作害虫であるヒメ

コガネが発生していたのがわかる。中世は大開墾時代で、人の居住域付近の畑・果樹園から畑作害虫が大発生していたのが判明したから、徳川家康と戦う一揆軍は穀物を大量に蓄えていて士気が高かったのではないかと教えてくれた。

3. 縄文時代の土器の粘土に押しつぶされたムシ…キマワリ

土器を調べると、その時代の大量のダイズ・アズキが見つかった。それは縄文時代は農耕をしていた証拠である。さらにキマワリ、ゴミムシダマシ、カミキリムシの幼虫がたくさん見つかった。この幼虫は食べてみると美味しい。これらのムシは森林生昆虫でヒトの居住域には生息しないのに、土器圧痕に残っていた。ヒトがはるばる林の中に分け入り採取して土器制作現場に持ち込んだとしか考えられない。今でも東南アジアでは市場に食用昆虫が売られるから、縄文人が食べるために持ち込んだのではないか。ムシの幼虫は植物のセルロースやデンプンを食べて肉（タンパク質）に変えている。縄文人がムシをタンパク質が豊富な食材として食べていたのではないか。

4. インカ道で拾ったムシ…1800 年前の 日本のクロツヤムシと比較して驚いた

インカ道で拾ったクロツヤムシを写真に撮ってみると東栄町のクロツヤムシの化石と同じだった。クロツヤムシ亜科は中南米ではクロツヤムシ族に、東南アジアではヒラタクロツヤムシ族に分化していたはずなのに、南米のクロツヤムシの発見で系統分類の仮説を覆した。採集したかったが、もしすると「日本人、世界遺産で昆虫を採取」と報道されるので、せっきくのクロツヤムシを林道に戻してしまった。それが今となっては残念である。

（山田博一記）

あいちの自然観察会 報告「森林公園自然観察会」

日時 2024年5月5日(日) 天気 晴れ 気温 最低 13.5℃ 最高 17.5℃

参加者 指導員 17名 一般 10名 計 27名

尾張支部 小林・霜

自然界に緑という色はいったい何通りあるのだろうか？ 無限とも思える様々な緑の中に、ツブラジイの金色のオバナがひとときわ輝いているように見える。その独特の香りも時々漂ってくる。岐阜・金華山の名前の由来となったと聞いて納得がいく。

今回「あいちの自然観察会」は、尾張支部定例の「森林公園自然観察会」と兼ねて行われた。いつもの定例観察会と比べて一般参加者・指導員とともに多く、賑やかな観察会となった。出発に先立って、指導員の木村(絢)さんから参加者に「ヒメコウゾ」と「ノイバラの仲間」の素敵なカードがプレゼントされた。いつもながらその精緻さは素晴らしい。それにしても、この時期の自然の移り変わりは早い。先月、みずみずしい花序を出していたモミジバフウは、すっかり受粉もおわり若い果実をつけていた。この時期にしか見られないソウシジュの花と羽状複葉も観察できた。この葉はすぐ落ちてしまい、細長い葉のように見えるものは、じつは葉柄とのこと。いつも必ず一つは「へえ！」がある。各種どんぐりの木がある「こどもの森」では、暗い木陰にキンランやホクリクムヨウランが見られ、湿地ではハルリンドウにかわってイシモチソウが白い可憐な花をつけはじめた。昆虫ではシロシタホタルガの幼虫(サワフタギ、クロミノニシゴリにつく)とホタルガの幼虫(ヒサカキにつく)をすぐ隣同士で見ることができた。ホタルガの幼虫の分泌物には毒があり、触るとかぶれるので要注意とのこと。また、昼頃にはハキリバチが短く切り取った葉をせっせと巣に運んでいる姿も見られた。

観察会終了後、参加者どうし弁当を広げての昼食会となった。日頃、名前しか存じ上げていなかった方々と直接お会いして話すことができたのも有意義であった。

木の花：トベラ、ハリエンジュ、ソウシジュ、カナメモチ、ツブラジイ、ウシコロシ、タニウツギ、ツクバネウツキ、コマユミ、ズイナ、ヒラドツツジ、ヤマブキ

草の花：ジシバリ、オオジシバリ、ブタナ、ニガナ、ハナニガナ、二ホンタンポポ、コナスビ、ヘビイチゴ、オヘビイチゴ、ニワゼキショウ、オオニワゼキショウ、ハルジオン、ヒメジョオン、ムラサキサギゴケ、スイバ、ツボスミレ、ホウチャクソウ、フタリシズカ、キンラン、ホクリクムヨウラン、カラスビシャク、ハルリンドウ、イシモチソウ

昆虫：アオスジアゲハ、キタキチョウ、ルリシジミ、クマバチ、ハキリバチ、シロシタホタルガ(幼虫)、ホタルガ(幼虫)、エゴノツルクビオトシブミ

鳥：ウグイス(さえずり)、ハシボソガラス



ソウシジュ(葉)



シロシタホタルガ(幼虫)



ホクリクムヨウラン



ホタルガ(幼虫)

あいちの自然観察会報告

テーマ 樹木博士になろう！！

名古屋支部 滝田 久憲

名古屋支部では、2019年に続き、今年度のあいちの自然観察会を5月6日(月、休)に鶴舞公園で実施しました。この観察会は、なごや環境大学連携講座として実施した「ふるさと親子自然観察会―樹木博士になろう！！」と同時開催で実施しました。

ところで、今回の観察会の会場となった鶴舞公園は名古屋市で最初の都市公園として明治42年に開園されました。中央部分にローマ様式の噴水塔を配し、その周りに色々な植物がバランスよく植栽され、サクラ、バラ、ハナショウブなど季節ごとの植物を觀賞することができます。そして、JR、地下鉄、市バスなどの交通の便が良いこともあり、緑豊かなこの場、スポーツ・レクリエーションの場として、名古屋市民に親しまれています。また、現在放送されているNHKの朝の連ドラ「虎に翼」のロケ地としても注目を浴びています。ところで、現在、名古屋市では都市化の進行に伴い、緑被率が減少し、都市におけるヒートアイランド現象の問題が地球温暖化に伴い、さらに加速されています。こうした中、各種の調査で、都市の緑が気温を下げる効果があることなどが分かっており、都市公園や東部丘陵地の緑の果たす役割などが再評価されています。これ以外にも、都市公園の樹木は多くの恵みを私たちに与えてくれています。

そこで、今回の観察会では、都市公園に植栽されている色々な樹木を觀察しながら、その特徴や役割などを参加者に学んでもらいながら、身近な都市公園の大切さやその保全などについて考えてもらうことにしました。この日の参加者は一般16名(内、子供9名)、当支部会員6名、知多支部1名でした。

ところで、会場となった鶴舞公園には、全国約50箇所に設置されているグリーンアドベンチャーの常設コースがあり、約50種類の樹木の名前やその特徴などを学習することができますようになっています。

今回の自然観察会では、時間も限られ、対象が初心者ということで、先回同様、クスノキなどの身近なもの、スギ、ヒノキなどの私達の暮らしに関わっているもの、ヤマボウシやトチノキなどのこの時期に花を咲かせているものなど11種類の樹木を選び、コース順に番号札をつけました。当日は、参加者に11種類の樹木のミニ図鑑を配布し、それを参考にしながら、当会会員が樹木の特徴や用途などを説明し、約2時間かけて、全コースを回りました。最後に、11種類の樹木の葉っぱの写真と樹木の特徴などを書いた質問用紙を参加者に配布し、樹木名を答えてもらいました。このような、樹木に番号札を付けて、その樹木の特徴などから樹名に導いていく方法の有効性を改めて感じました。



自然観察会風景

西三河支部総会報告

三田 孝

2月3日(土)に支部総会が参加者15名を得て岡崎竜美ヶ丘会館で行われました。総会の概要を報告します。

2023年度は予定された4回の支部主催観察会(4月佐久島、7月津具高原、9月豊田市六所山、1月岡崎市甲山周辺)を全て実施できました。6月の天生湿原研修会は直前の台風2号の水害のため4度目の中止となりました。6ヶ所の地域定例観察会(くらがり溪谷、おかざき自然体験の森、おかざき自然体験の森植物、草だらけの会、亀城公園とその周辺、岡崎東公園と小呂湿地)は順調に開催されました。

2024年度の会主催観察会は4回。3月31日(日)「北山湿地」はギフチョウとヒメカンアオイを見ようです。この地では久しぶりの開催になります。5月19日(日)「段戸裏谷原生林(きららの森)」はブナ帯のツツジを見よう、定番の観察地です。10月5日(土)「本宮山頂上周辺」は789mの秋の花を楽しもう、1月19日(土)「亀城公園」は冬鳥と木の実を見よう、を企画しました。会員研修会は6月1日(土)「昭和の森」です。自然観察の後、BBQで親睦を深めたいと思います。

地域定例観察会は昨年と同じ6か所で昨年同様の日程で開催予定です。草だらけの会は30周年の節目を迎え担当の山原勇雄さんが勇退され、水野みどりさんにバトンタッチされます。

尾張支部総会報告

内海勇夫

日時 令和6年1月10日(月・祝日)

10:00～

場所 こまき市民交流テラス

参加者 8名

尾張支部総会は、令和5年度の事業報告・決算報告及び監査、令和6年度の役員・事業計画案・予算案が承認決定されました。

尾張支部の今後の方針について

会計の件・・・会費はなし。今までの残金で行います。今後、会費徴収する場合もあります。

役員の件・・・4月になってから、会長から辞退の報告がありました。尾張支部・愛知自然観察指導員連絡協議会とともに辞退です。

通信・・・昨年度から実施した、機関紙をメールで配送しています。

尾張西部生態系ネットワーク協議会

この協議会で行われる観察会等に参加する方向で考えています。

今まで実施してきた築水池自然観察会、定光寺自然観察会がなくなりました。しかし、犬山里山学センターからの申し出があり、観察会に取り組もうとしています。また、築水自然観察会を中心に新たな観察会も考えています。

尾張支部 令和6年度役員

会長 平井直人 副会長が会長代行

副会長 平井直人 事務局 内海勇夫

会計 霜 佳子 監査 木村慎一郎

通信作成 齋竹善行 HP 山田博一

名古屋支部総会報告

滝田 久憲

日 時：2月25日（日）14:00～
場 所：名古屋市西区生涯学習センター
参加者：23名 委任状：49名

令和6年度の名古屋支部総会が名古屋市西区の浄心交差点近くにある「名古屋市西区生涯学習センター」の視聴覚室で開催されました。昨年の5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に変更されて以来、日常生活での基本的な感染防止対策が各自の判断に委ねられることになりました。そこで、マスク着用などは個人の判断に任せましたが、インフルエンザの流行の時期でもありましたので、多く出席者がマスクを着用されていました。

支部長の挨拶の後、議長と記録係が選出され、議事が進められました。

最初に令和5年度の各種事業の報告が行われました。一年遅れでしたが、設立40周年記念事業を実施したこと、中村公園での定例観察会が正式にスタートしたこと、2003年6月に立ち上げたなごや自然教室が20周年を迎えたことなどの報告がありました。また、こうした事業に関わる会計報告もなされ、共に承認されました。また、令和6年度についても、定例となっている自然観察会や名古屋市環境局との協働事業などを実施することとし、そのための事業予算などが議論され、共に承認されました。

総会終了後には、加藤修朗氏（中部蜘蛛懇談会代表）による「クモって嫌われていますが本当は益虫です」と題した講演会が実施されました。

令和6年度支部役員

支部長 滝田久憲

副支部長 各定例自然観察会代表者

会計 久村三重子、会計監査 森 光宏

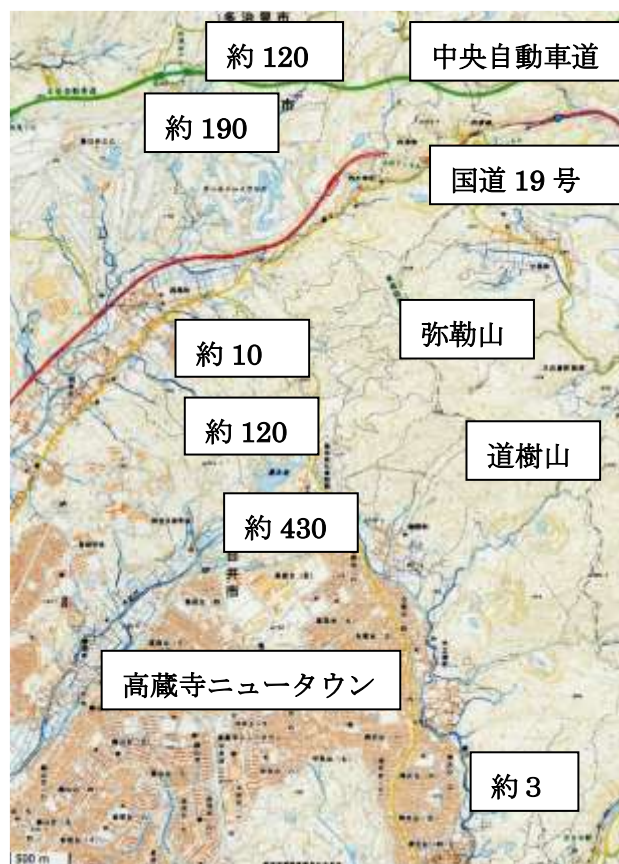
春日井市のシデコブシ

内海 勇夫

2020年以降に行った、シデコブシの調査について報告します。

春日井市から特別天然記念部に指定されたシデコブシが、廻間町付近に分布しています。このほかにも、春日井市の東北部の地域には、シデコブシが分布する地域があります。

・・地図の数字はシデコブシの本数・・



地図の本数はおおよそその数であり、まだ数えられなかったものもあると思われます。しかし農地（西尾町）や都市化が進んだ地区（高森台・石尾台等のニュータウン）では、シデコブシはなくなり、まだ人が入っていない県有地や市有地のみにシデコブシが残っていると思われます。こうした自然をこれからも見つめていきたいと思っています。

東三河支部総会報告

「非」真面目にそして「いい」加減に！
東三河支部 星野 芳彦

去る2月4日(土)、豊橋市民センター(カリオンビル)4階の中会議室で令和6年度の通常総会が開催されました。議案審議では、さまざまな意見が出され、活発な議論を経て、議案は可決、承認されました。

当支部は、一昨年創立40年を迎えました。会のあり方や運営方法については様々な問題を抱え、苦慮しています。特に自然観察会へのメンバーの固定化が懸案です。イベントの回数を減らし、新しいスタッフリーダーへ委ねるべく試みましたが、なかなか解決できません。豊橋の自然関係、福祉関係など様々な市民活動団体同士の交流会に参加しましたが、どこも同じような問題を抱えていることを再確認しました。その場で、問題解決について意見交換をしたところ、『とにかく、まず活動を楽しむ！』ことで意見が一致しました。問題は、そのためにどうするかです。

当会の総会の中で、私は、「非」真面目にそして「いい」加減に！活動しましょう！と会を締めくくりました。肩を張らず、気楽にやることで、無理なく活動が続けられるはずです。

東三河ふるさと公園での「明日に伝えよう、すばらしき東三河の自然！」写真展も2



年目に突入しました。2ヶ月毎の展示替えて季節に応じた東三河の自然の姿を紹介しています。

東三河にお越しの節には、是非ご覧下さい。
「いっぺん、おいでん。待っとるでのん！」
(一度おいでください。待っていますからね！)

保険担当

高松 一史

はじめまして

2024年度 保険担当 高松一史です。

前任者 新山雅一様から変わり担当をさせていただきます。

愛知県自然観察指導員連絡協議会ホームページ

2024年レクリエーション傷害保険(パスワード入力)の詳細が確認出来ます。”指導員”の皆様は一度熟読をして頂ければ幸いです。

特に、参加者への熱中症対応等もご覧ください。

一年間 皆様の安全と安心を願いまして新任のご挨拶とさせていただきます。

よろしくお願いします。

ピースモードで見た『山火事と自然』

5. 南アフリカ

東三河支部 中西 正

2017 年 1 月、ピースボートは南アフリカに到着した。この国では北東部にあるクルーガー国立公園のサファリとケープタウンから喜望峰までの乾燥地の自然の見学をした。

クルーガーの中の様子である。道沿いの灌木は食われた跡があり、また倒された木はゾウの仕業と説明を受けた。植生はサバンナというより、樹林という感じであった。特に広い範囲で黒く焼けた木が目についた。火事の影響と思われる。しかし、この原因を雷だとか、たばこなどの過失の野火によるという説明があったりしたが、それでは無理があるだろう。人為的に火入れをしている印象だった。幹まで焦げて、そのまま枯れたものもあれば、その根元から新しい芽が伸びているものも多かった。この地域は放置すれば叢林化すると考えられる。それも結構樹高の高い森になりそうだ。このために火入れをし遷移を停滞させる。これによって新しい芽を出させ、草食獣が利用する植物を確保するという意味があるのではないだろうか。どのような計画の下で行われているのか、そこに興味があった。

ケープタウンから喜望峰に行く途中のノードホークの海岸は広い砂浜海岸だった。一部は砂が積もった砂丘になり、また異なった植生がありそうだった。この高台から見える南の山から大規模に煙が出ている。山火事と直感した。道はその山のふもと続き、それを回り込んで喜望峰へ向けた。バスからはかなり多くの煙、消火活動しているヘリコプターも見えた。この時は煙の中に入らなかったが、帰りのペンギン営巣地の見学の際には煙の中になった。

喜望峰周辺は乾燥地で風が強い場所だろう。草一株一株は丸く、クッション状態になっている。さらに強い風を受けるとその方向は枯れるのではないだろうか。草の株が同じ方向で枯れている草原が広がっていた。同様に木本でできたブッシュが枯れていることもある。これも同一地域で同じ方向が枯れていた。

斜面に枯れた木が散在する場所がところどころ見られた。木の根元の焦げているのも観察できた。これは土を肥やすために火入れをして、木を燃やしたあとだという。この地方では燃やすという事に抵抗はないのだろうか。

ボルダービーチはペンギンの営巣地で、保護されている。木道が 50cm くらいの高さに設けられ、ペンギンはその下を移動できる。地面には巣穴がいくつもあり、そこから顔を出している場所もあった。それぞれ違った動作をしており、そのしぐさを見ているだけで飽きなかった。波間を泳ぎ、波乗りよろしく上陸するような個体もあった。この一帯に山火事の煙が流れてきており、それによって景色には赤味がかかった灰色のスクリーンがかかっていた。

帰路は山火事の影響で閉鎖された道路があり、それを迂回するためにやや遠回りの行程になるという。また、迂回する車によって渋滞することも予想されるという事だった。



焼け跡の中のインパラ（クルーガー）



煙にけぶったペンギンの営巣地

行 事 案 内

☆ あいちの自然観察会 知多支部 9月29日(日) 9:30~12:00 高根の森(東浦町)

「身近にあるキノコを見つけよう」 高根の森駐車場集合

☆ あいちの自然観察会 西三河支部 10月5日(土) 9:00~12:00 本宮山頂周辺

「789mの高原で秋の花を見よう」 本宮山山頂駐車場

☆ 協議会の日 会員交流会 10月19日(土) 集合場所 植物園の展示館の会議室 森林公園
正門の公園管理事務所で案内します。

午前 森林公園の植物園での観察会 昼食後 ワークショップ、茶話会を予定

<編集後記>

協議会ニュース 181号 ** お願いです **

今までは石原さんの力で続いてきた協議会ニュースです。協議会の事務局の仕事も進められたことに、想像以上の力を感じています。

今後は、皆さんの力がなければ、石原さんがぬけた協議会ニュースは、誰も読まないものになってしまいそうです。各観察会では、いろいろなことがたくさん行われていると思います。そんな情報を、ぜひお送りいただきたいと思います。

また、表紙の写真も今回は内海が写したのですが、イラストや写真も是非お送りいただきたいと思います。協議会ニュースの初期に作成されたニュースには、・・・各支部の活動や、全体の活動していただけるよう努力し、この機関誌を通じて会員相互の連携を深めながら機関紙を通じて会員相互の連携を強めながら・・・

編集委員	内海勇夫 馬場隆之
編集校正委員	岡田雅子

愛知県自然観察指導員連絡協議会(あいち自然観察会)事務局 浅井聡司

〒480-1178 長久手丁子田 17-62 TEL/FAX : 052-701-1552

sky-asai@earth.ocn.ne.jp Web Page : <http://anoicm.sakura.ne.jp>

郵便振替口座・00820-9-6546 (名義・愛知県自然観察指導員連絡協議会)

愛知県自然観察指導員連絡協議会(あいち自然観察会)機関紙「協議会ニュース」181号 2024年6月発行